



令和6年1月15日  
第877号

一般財団法人日本遺族会  
〒100-0001 東京都千代田区千代田五丁目九段南一丁目六番四階  
電話 03-3261-5521  
00160-6-25389  
FAX 03-3261-5522  
編集 発行人 盛川英治  
毎月1回15日発行  
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

が高く評価され、新規事業として2500万円が計上された。  
また、公務扶助料等の据え置きや、遺骨収集推進法改正に伴い海外における同事業の実施や遺骨の鑑定が大幅に増額された。また今年3月で開館から25年を迎える昭和館運営費の増額など、概ね本会の要望事項が計上された。一方で海外・国内民間慰霊碑への要望など課題は残されている。  
令和7年には戦没者等の遺族に対する特別弔慰金が増額され、海外へ渡る遺族の活動

# 「平和の語り部」事業化へ

## 令和6年度政府予算決定

政府は12月22日の閣議で来年度政府予算案を決定した。本会関係では、最重要要望事項であった組織継承策の柱「平和の語り部」が新規事業として新たに2500万円計上された。その他、公務扶助料等の据え置き等処遇改善項目をはじめ、遺骨収集事業、慰霊事業等の増額、開館25年を迎える昭和館予算等、概ね要求通り計上された。

令和6年度政府予算案は12月22日閣議決定され、一般会計の総額は112兆円となり、12年ぶりに前年を下回ったが、6年連続で100兆円を超えた。中でも全体の3分の1を占める社会保障費は、高齢化や少子化対策のため、過去最大となった。緊縮財政の中、本会は12月11日に開催された自民党の遺族会心援団である遺族族議員協議会総会

### 盛山文科大臣に要望

#### 語り部事業に理解

12月19日、水落敏栄会長及び事務局は、「平和の語り部」事業について、盛山正仁文部科学大臣へ要望した。  
「平和の語り部」実施拡大の最大の障壁は、学校機関の受け入れであり、関係者の理解である。同事業を利用してもらえるよう内容を説明するたため、副大臣等として長年文部科学行政に携わった水落会長が、文部科学大

臣への要望を依頼し、実現したものである。要望を受けた盛山文科大臣は、当事業に深い理解を示したうえで、ウクライナやパレスチナなどの、今でも戦争状態にある国や地域の状況と併せて、戦争の悲惨さ、平和の尊さを考える機会にしてほしいと示唆した。

加えて、武見敏三厚生労働大臣に対し、当事業を広げるために、文科省として対応を検討したいと伝えたとの発言があり、次年度の活動拡大に希望の兆しが見えた。  
盛山大臣は、遺族会活動に理解が深く、改正九段会館無償貸与法の提案者である。

た。全国の遺族代表の丸となった陳情運動により、本会の要望事項は概ね実現した。  
最重要要望であった「平和の語り部」は、戦争の記憶を次世代へ伝承し、恒久平和を考える機会を与える遺族会の活動

が最終償還が迫っており、組織継承のため、必ずや継続・増額を実現させるべく、本部支部一体となり更なる運動を展開しなければならぬ。  
泥谷政男氏 日本遺族会元理事。大分県遺族会連合会元会長。  
令和5年11月7日、逝去された。94歳。葬儀は大の葬祭やよい会館で行われた。喪主は長男昭氏。

### 謹 哀悼

### 戦後100年に向けた決意

日本遺族会会長 水落敏栄

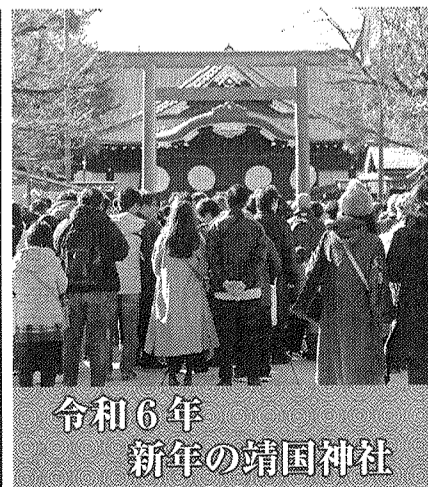


ご遺族の皆様にはお元気で新しい年をお迎えのことと拝察いたします。年頭にあたり、日本遺族会会長として、今後の展望をお伝えいたします。本会は、二度と私たちが戦没者遺族を出さないという固い決意のもと、昭和22年の結成以来、一貫して恒久平和社会の構築を目指してまいりました。遺族会活動の根幹は、英霊顕彰と遺族の福祉向上(処遇改善)であります。戦後、占領政策によって一切の処遇が絶たれ、同時に「戦争犯罪に担じた人の家族」と白黒視された戦没者遺族が、助まらぬ、扶けあつて会を結成し、処遇を求めたことは当然の流れであります。遺族の決死の思いが国や関係機関を動かす、現在まで逐年改善が図られ、昨年には、戦没者等の妻に対する特別給付金(妻特給)が継続の上、増額されました。次は令和7年に最終償還を迎える戦没者等の遺族に対する特別弔慰金(特弔)が控えております。妻特給とは、20代から30代前半の若さで夫を戦争で失った妻が、幼子と老親を抱え、一家を支えるために働き詰めであったその労苦を国が忘れないための法律であり、「国は戦没者を忘れない」とする特弔も同様で、継続しなければなりません。つまり、処遇改善も「英霊顕彰」であります。  
先の大戦では310万余の尊い生命が犠牲となりました。その犠牲を忘れないこと、そしてかけがえない存在を失った多数の人々の悲しみを伝えることが「英霊顕彰」であり、戦没者遺族に課せられた社会的責務であると考えます。  
なぜなら、私も遺族の筆舌に尽くしがたい記憶や戦没者に対する思いは、二度と戦争の惨禍を繰り返さないための貴重な教訓であるからです。そしてこの教訓を確実に次世代へ継承するために、遺児と青年部が協力して行うのが、「平和の語り部事業」であり、その重要性に鑑み、国の補助事業となりました。  
今後、遺族会は「戦争の記憶を伝承すること」に集約されることを考えます。つまり、総理閣僚の靖国神社参拝はもとより、慰霊碑の維持管理や、遺骨の収集、慰霊巡拝、戦没者の遺品返還事業も含まれます。  
悲しみや苦しみを忘却することで乗り越える人間にとって、記憶の風化に抗うことは、簡単なことではありません。だからこそ、800万遺族の800万通りの悲しみを多様な形態を使って、伝承してまいります。  
ここに、本会は戦後100年を目指し、活動を続ける決意を表明し、その前提として青年部への組織継承の道筋をつけるべく、私は、粉骨砕身尽力することをお約束し、新年のご挨拶といたします。(M)

# 令和6年 能登半島地震被災者の皆様に 謹んでお見舞い申し上げます

一般財団法人 日本遺族会

晴れやかな新年の始まりの日  
に石川県能登半島沖を震源とした地震が起きた。  
北海道から九州にかけて広い範囲に津波警報が発せられ、テレビからは「逃げて」と、強い口調で避難の呼びかけが続いた。  
2日には、被災地に支援物資を運ぶ海上保安庁機と民間機が羽田空港滑走路上で接触する大事故が。本当にやり切れない思いと、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。被災された皆様にはお見舞い申し上げます。あとも1カ月余でロシアによるウクライナ侵略が3年目に突入する。昨年10月には、イスラエル軍によるパレスチナ自治区ガザでのイスラム原理主義組織ハマスの掃討作戦がはじまり、現在も続く。アジアでは、ミャンマーもまた戦火が絶えないまま年を越し、何処かで犠牲がでている。二度と戦争の惨禍を繰り返さないため、できることは記憶の継承である。未来を担う若い世代に先の大戦で体験した辛い悲しい思いを決してさせないためにも、戦没者の遺児の教訓を語り継いでいくことが、世界の情勢が混沌としていく今だからこそ必要とされている。▼辰(龍)は十二支では唯一の想像上の生き物で、辰年は変化し、飛躍する年になるそうだし、▼平和の語り部事業が国の予算として認められ、いよいよ本格的に始動するにあたり、飛躍的に事業が推進されることを願うばかりである。(M)



令和6年 新年の靖国神社

### 謹賀新年

一般財団法人  
日本遺族会  
会長 水落敏栄  
副会長 宇田川 劔雄  
同 國政 隆昭  
他役員一同



### 洗心懇談会(順不同)

- 東 郷 会
- 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
- 三 笠 保 存 会
- 中 央 乃 木 会
- 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
- 隊 友 連 盟 会
- 日 本 郷 友 連 盟 会
- 水 交 友 会
- 借 行 社
- 靖 国 神 社 社
- 英 霊 に こ た え る 会
- 日 本 遺 族 会



# 援護事業功労者へ 厚生労働大臣表彰

## 本会関係者103人栄えある受賞

令和5年度の援護事業功労者に対する厚生労働大臣表彰が12月13日、都内の都道府県会館において挙行された。多年にわたり戦没者遺族、戦傷病者、中国からの引揚者等の援護事業に携わり、功績が顕著な方々107人が表彰された。このうち日本遺族会関係者は、43支部103人が栄えある受賞に輝いた。

厚生労働大臣表彰式が12月13日、午前11時30分より都内の都道府県会館で挙行された。



被表彰者を代表して謝辞を述べる関谷忠氏  
=12月13日、都道府県会館で

臣の挨拶に続いて司会者より被表彰者の名前が一人ずつ読み上げられると、栄誉を称える大きな拍手が沸き起こった。

被表彰者を代表して坂井信子氏（中国帰国者支援・相談員）へ宮崎厚生労働副大臣より表彰状と記念品が授与された。その後、来賓として挨拶に立った水落敏栄本会長が先の大戦が終結して今日までの長きにわたり、戦没者の遺族あるいは戦傷病者などの戦争被害者の援護救済と福祉の向上に力を尽くされた被表彰者の労をねぎらい、祝意を述べた。

- 木智榮子、安達雅子【青森県】、佐藤隆子、三浦政勝、相内正幸【岩手県】、米内肇、小野寺雄治【秋田県】、土田祐輝、甲谷久朗【宮城県】、今野兵次、伊藤一博【福島県】、佐藤洋孝【山形県】、清野忠利、東海林正【東京都】、古澤悦子、奥田俊五、高木義夫【神奈川県】、北見政雄、田村美智代、平木敏勝、玉泉、持田紀男、木下路也、関根洋子【茨城県】、豊島寛一、梶間稔、篠崎正己、高橋許子【静岡県】、松本孔、白井照造、芹澤和子【群馬県】、吉野矩久【栃木県】、田名綱省史、篠原昌史【山梨県】、保坂良住、齊藤よし江【長野県】、滝澤瑛光【富山県】、畔田晃【石川県】、橋本外志子、松平泰明、北野昌子【福井県】、新井基衛、鳴鹿愛子、名津井萬【愛知県】、市橋郁代、渥美南枝、水野章子【岐阜県】、堀源吾、神座孝男、房前征一【三重県】、山岡宏久【滋賀県】、一井久雄、橋本隆介、瀧澤吉興、福井敏子【和歌山県】、生駒淑子、杉本博子、貞易治【京都府】、七尾園充【兵庫県】、森田健治、財田勝彦【鳥取県】、大川則顯、森田勝彦【島根県】、勝部友芳、矢田一恵【岡山県】、三宅禎浩、山下桂正、岡本忠吉原啓二、野田清、川上宮城篤正

## 戦没者遺骨収集事業

### インドネシア、パラオ諸島へ派遣

日本遺族会は11月から12月にかけて日本戦没者遺骨収集推進協会主催による海外2地域（インドネシア、パラオ諸島）の現地調査・遺骨収集派遣に参加協力した。

日本遺族会は11月から12月にかけて日本戦没者遺骨収集推進協会主催による海外2地域（インドネシア、パラオ諸島）の現地調査・遺骨収集派遣に参加協力した。

パラオ諸島 遺骨収集は、ペリリユー島とアンガウル島で11月27日から12月13日の期間で実施され、本会から3人が参加協力した。

## 本会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。

賛助者名（敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等）  
谷忠義、山本哲也、岡本房徳、松本京子、竹内友義、中林清、松井仙吉、神谷正子、森本浩吉、山岸幸子、大泉静江、澤田昇子、織田喜美子、榎本

## 組織継承「語り部育成」

### 各地の取り組み紹介

各地域における組織継承策「平和の語り部」の取り組みを紹介したい。

成21年より先の大戦が閉戦した12月8日に戦争の悲惨さ、平和の尊厳を考へる同集いを開催し、今回で15回を数え、昨年から青年部の参加を促すため、12月の第一日曜を開催の日としている。

本会担当者より組織継承策を説明した。斐川町遺族会では、昭和55年に遺児の青年部結成20周年記念事業として全遺族から回想文を募り作成した記念集を発刊する等、記憶の継承活動を積極的に

内広域で語っている原晴昌会長は、語り部活動の根本は「家族の歴史を伝えること」と話し、遺児と青年部が共に活動することの重要性を示した。

12月10日、兵庫県遺族会青年部主催の「第1回平和の語り部」戦争の記憶が加西市soraかさいで開催された。

12月14日、滋賀県遺族会今堀治夫会長他、役員は本会事務所を訪れ、同県遺族会における取り組みを説明した。

の訓練基地となった場所、通常は展示室内にある特攻機「紫電改」を屋外へ出すイベント等に会場した一般市民等50人が講話を聴講し、地元加西市長はじめ、国・県・市議会議員も来場して、地元紙数社が取材する等反響を呼んだ。

調査、資料作成中であり、実例として、今堀会長の地元東近江市にある旧日清紡能登川工場の爆撃の実態を伝える資料を持参し、地域に密着した歴史、記憶を伝承することの重要性を示した。

来年度の「平和の語り部」事業の全国展開を目指し、実情に沿った「語り部」の取り組みを促進すべく、各地の活動を今後も本紙で取り上げる。



語り部活動の重要性を話す原晴昌斐川町遺族会会長  
=12月3日、島根県で

